

■ 蛭田 傳助 (ひるた でんすけ)

明治 10 年 1 月 3 日～昭和 10 年 7 月 23 日 (1877～1935)

上房郡有漢村(現・高梁市有漢町)で吉田虎造の三男に生まれ、蛭田国治郎の養子となる。のち分家する。明治 37 年(1904)有漢村役場の書記となり、収入役・助役を務め、大正 10 年～昭和 3 年(1921～1928)、昭和 8 年～昭和 10 年(1933～1935)村長を務めるが、任期途中で死去。

在職中「無税の村」を目指して経済更生計画を立て、農林業の開発に生涯をかけた。特に大正 11 年(1922)9月に着工し昭和 7 年(1932)8月に完成した灌漑用の有漢池(注 1)の建設及び、新田・新畑 40 町を開発し、旧田 84 町歩の田を潤した。また村民の食生活向上のため、村営淡水漁場を建設し鯉の飼育を奨励した。性格は、誠実で不器用、それでいて人柄は大きかった。人を大切にし常に弱い人に配慮する心の細やかさがあり、上に対しては堂々と正論を吐く大きさがあつた。有漢地域センターに陶像(備前焼)がある。

注 1：有漢池…大正 11 年(1922)9月に着工し、池の部分は昭和 3 年(1928)に完成、その後水路、新田工事が行われ昭和 7 年(1932)8月に 10 年余りの歳月をかけて完成した。この事業の完成を記念して堤防に「有漢池記念碑」、「有漢池改修記念碑」と当時有漢村長であり、有漢耕地整理組合長であった、蛭田傳助の業績と功勞讃えた「蛭田傳助頌徳碑(ひるたでんすけしょうとくひ)」が並べて建立されている。傳助はこの池の工事に命をかけ、完成後体調を崩し昭和 10 年 7 月その生涯を閉じた。